

令和2年度 9月号

令和2年8月31日発行
横浜市立東汲沢小学校

“輝け！ひぐみっ子” だより

～東汲沢小学校教育目標「学びあい 高めあい まちとともにあゆむ ひぐみっ子」～

☎861-5531 <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/higashigumisawa/>

子どもの学びを垣間見ることのすゝめ

校長 丹羽正昇

コロナ禍において、ひぐみっ子は学校でどんな学びをしているのか。皆さん、気になるころだと思えます。今年度、未だに授業参観を実施できておりません。本当に申し訳なく思っております。社会的情勢を踏まえ、実施の条件を整理していきます。もうしばらく、お待ちください。

授業参観の話とは程遠いのですが、少しでもひぐみっ子の学びを感じていただきたいという思いで、今回は教科書を通して子どもの学びを垣間見ませんかというお話をいたします。使用するのは、国語科の教科書です。お子さんのものを近くに置いていただき、この文をお読みください。（教科書がお近くにはない場合には、学校で使用している教科書を出版している光村図書出版のWebページをご覧ください。）

教科書は、学校での学びを成立させる重要なアイテムの一つです。しかし、学校関係者以外の方が、それに着目することはほとんどありません。子どもの資質・能力の育成に欠かせない教科書。実は、多くの工夫がされています。それを知ることは、子どもの学びを知ることに繋がります。

まず、教科書を見てお気づきになったことはなんでしょう。自分が使っていたものより少し大きいということでしょうか。それとも、教科書に題名が付いていることでしょうか（この題名、1年生から4年生までは、上下巻で異なります。下巻の題名はお楽しみに。※5、6年生は通年一巻）。複数の学年の教科書をご覧になれる方は、学年ごとに色が決められていることに気付くことができます。しかも、その色は、教科書の中で繰り返し使われています。どこにどのような意図で使われているのかは、ご覧いただくうちにしっかりと伝わってきます。

次に、教科書の字体はどうでしょうか。教科書には、「教科書体」という教科書のために開発された字体が使われています。これは、小学生が字の筆順（書き順）を理解しやすくするために開発されました。実は、明朝体やゴシック体等では、筆順を間違える恐れがあります。また、表記の仕方に着目すると、1年生全部と2年生の途中までは、「分かち書き」が採用されています。これは、文節ごとに区切るのが特徴で、英語などに使用されている表記方法です。これが用いられている理由は、幼い子どもが、言葉の区切りを音で聞いて理解したり認識したりしていることに基づいています。

さらに、いまの教科書には、複数のページに二次元コードがついています。これを読み取ることで、前だったら教科書に載せることができなかった種類の情報が出現します。子どもの世界感が広がったり深まったりするツールとして、実に面白い試みです。ぜひ、試してみてください。

他にも、教科書には様々な仕掛けが施されています。これらの仕掛けは、全て、子どもたちが主体的に学ぶためのものです。教科書の構造を理解しながら、そこに施された仕掛けを最大限に生かすために、教師は日々の教材研究を重ねています。別の言い方をすれば、教師が日々目指しているのは、「教科書を教える」授業ではなく「教科書で教える」授業であり、子どもの主体性を引き出す授業だということです。

最後に大人が教科書を読む醍醐味をご紹介します。教材文のうち、お好きな物語を一つ選び、読んでみてください。すると、少なくとも二つの読み方を体験することができます。一つめは、一読者として読む、大人としての読み。二つめは、子どもはどう読むのかなあと想像しながら読む、子どもになりきっての読みです。もし、ご自身が小学生のときに読んだ作品があったら、その頃と比べながら味わってみるのもいいかもしれません。昔得た感動が、今はないことに気付くかもしれません。その逆に、昔思わなかったり気付かなかったりした感動に、今、出会えるかもしれません。そんな教科書を読んで得た感想を、教科書を真ん中において子どもと語り合う。子どもの毎日の学びの一端が垣間見えるのではないのでしょうか。